

「実践者と考える「育ちのための表現」と幼小連携」

今回のシンポジウムでは、0歳から12歳の子どもたちの成長のステージに合わせ、幼児教育と小学校教育をつなぐものとしての造形表現について考えていきたいと思っています。

テーマとパネリスト・モデレーターのご紹介

## Schedule

### 会の主旨

**手嶋尚人** (造形表現学科教授・家政学部長)

### 基調講演

幼児教育の現場から

「乳幼児が自発的に生み出す造形表現と大人の関わり」

**浅羽聡美**

(造形作家・アトリエ ル・マタン主宰、保育園等での造形活動)

図画工作の現場から

「成長する子供の姿を読み解く教師のまなざし ～実践を通して考える～」

**南育子**

(墨田区立業平小学校指導教諭・元東京都図画工作研究会副会長)

### ディスカッション

「実践者と考える0歳から12歳の育ちと造形表現」

**浅羽聡美** (前述)

**南育子** (前述)

司会 **手嶋尚人** (前述)

日時 令和元年 7月13日(土)  
13:30~16:00 (13:00開場)

会場 東京家政大学 120周年記念館  
120-3C 講義室 (正門入ってすぐの11階建物 3階)

会終了後、懇親会も行いますので、ご参加ください。

問合せ先: [tejima@tokyo-kasei.ac.jp](mailto:tejima@tokyo-kasei.ac.jp) (手嶋尚人)



2019  
7/13

入場無料・申込不要